



# なぎさ

小松市立安宅小学校 学校だより  
NO. 9  
令和2年9月9日  
校長 広見 理恵



## コロナでの差別・偏見について考えました

石川県や小松市では現在、誰がコロナに感染してもおかしくない状況にあります。

こうした中だからこそ、コロナでの差別・偏見について真剣に考え、向き合う必要があると考え、安宅小では全学年で「コロナへの差別・偏見について考える授業」を行いました。

以下、子どもたちの感想を掲載します。子どもたちの真摯な思いを知っていただき、安宅小の子どもたちを偏見や差別から守れるのは私たち大人の言動でもあることを、共に考えていきましょう。



どんなことがあろうと、人を傷つけてまで自分を守ろうとするのはおかしいと思います。この世のすべての人で「かかりたい」と思っている人はいない。マスクも手洗いも感染予防している人でもかかってしまう人はいるので、自分だけを守るんじゃなく、かかった人も含めてみんなを守れたらいいと思います。もちろん、自分だけかかりたくないと思っているけど、自分を守ることで相手を傷つけてしまうこともある。簡単なことではないと思うから、だからこそみんなで考え、取り組んでいくことに意味があると思いました。〈6年〉

私は今日の授業を受けて、コロナにかかったときの接し方はいろいろあることを知りました。人には自分と違う考えの人もいるので、相手の気持ちを考えて接したいと思います。

そしてなぜ6年生が考えるのか？ 私たちが考えることで学校が変わるのか？と考えたときに、6年だから心の強さを持てる、6年だから低学年が何か言っていたら言ってあげられると思いました。

最高学年としてこれからもがんばっていきたいです。 〈6年〉

コロナウィルスは怖いものだと思います。もし僕がかかったら一番怖いのは「差別」です。差別というのは結局「心の弱さ」から生まれると知りました。ぼくは差別が嫌なので、6年生全員で差別がないようにしていきたいです。そして真剣に向き合いたいと思います。

〈6年〉

差別はぜったいしないようにしたい。6年生がよくないことをすると、下級生がダメになる。そして学校がダメになる。だからまず6年生から、しっかりと当たり前のことをしていきたいと思いました。 〈6年〉

やっぱり差別はダメだと思った。それはやっぱり自分のことしか考えていないから差別になる。自分もかかりたくない。それはみんな同じだけど、相手を傷つけてまでやることか、といったらそうではないから、自分は絶対にしないようにしたい。

周りで差別があったら注意し、安宅小から差別というものをなくしたいと思いました。 〈6年〉



今日コロナについて話し合いました。自分はコロナにかかった人にいつも通り接したいけど、本当にそうになったらやっぱり何か思うってしまうかもしれない。

そんな自分の弱さを乗り越えるため、一日一日を無駄のないように、自分が強くなれるために生きていきたいと思いました。 〈6年〉

もし身近な人がコロナにかかってしまったら、私はいつも通り接したいです。相手がコロナだからいつもよりやさしいとか不安にさせるかもしれないから、いつも通り普通に接することでコロナ扱いされていないなど思えることが大切だと思うからです。でも元気づけたり、いつもは言えてない感謝の気持ちを伝えることも大切と思いました。受け入れることが大切と思いました。〈6年〉

噂を流したりするのは差別につながるし、相手の心が傷つくので、これから気をつけていこうと思います。みんなの話を聞いて、コロナは怖い、でも差別はいけないとわかりました。 〈5年〉

一人がうわさしただけで、たくさんの人がそれを知ってうわさになることがわかった。不確定な情報をたくさんの人に知らせるのはみんなが迷惑する。〈5年〉

これから自分は、ほかのだれかがコロナになってもはげまして、もし自分もなったらはげまされたいです。今コロナと戦っている人はなりたくてなっているわけじゃないからです。〈4年〉

かかったひとが悪いのではなく、コロナウィルスが悪いのだとわかった。〈5年〉

医者や薬を作る人（医療従事者）には本当にがんばってほしい。〈5年〉

人それぞれ、やさしい言葉をかけてほしい人や、いつも通り話したり遊んだりしてほしい人がいることがわかりました。



相手の気持ちを考えることが大切だと、今日の授業でわかりました。〈4年〉

ぼくはこの授業をとおしてあらためて「いじめってこわいな」と思いました。ぼくの身の周りの人に幸せになってほしいので、いじめをしている人がいたら注意したいです。〈4年〉

心がよわいと、いじめやさべつがあることがわかりました。これからは心をつよくして、さべつやいじめなく生活したいです。 〈3年〉

できるだけかからないようにして、友達がかかっても、かかる前と同じように接したいです。自分がもしかかったら普段通りにしてほしいからです。〈4年〉

自分から「だいじょうぶ」や「いっしょにあそぼう」とこえをかけてあげたいです。また「見守る」こともあたらしくわかりました。〈3年〉

あたらしくわかったことは、あいてのきもちをかんがえることがだいじだとわかりました。これからあいてのきもちをかんがえてこうどうしたいです。 〈3年〉



きょうのおはなしで、もしコロナになっても、ともだちにはだいじょうぶとこえをかけてあげたいです。〈2年〉

心がよわいと、いじめやさべつがあることがわかりました。これからは心をつよくして、さべつやいじめなく生活したいです。 〈3年〉

ひとりひとりたいせつにしたり、やさしくしたりする。〈1年〉

わたしはみんなでのしく、たいせつに、いのちをたすけて、がっきゅうもくひょうの「いつもわくわくたのしいくらす」にしたい。〈1年〉

ぼくはひとにやさしくする。〈1年〉



子どもたちが、自分の思いを自分の言葉で話すその真剣な姿を目の当たりにし、話し合いの時間をクラスで共有できたこの過程こそが大切なのだと感じました。

差別を生み出すのは誰にでもある心の弱さからであり、だからこそその弱さを自覚しつつ、強い心で行動することが価値のあることなのだと思います。



### 「やさしいことは つよいこと」

本物の優しさと強さをもつ安宅っ子、安宅小学校になっていけることを願います。